

Tera



目 次

【 事業報告 】	平成27年度基本方針	富永安治	1
【 巻 頭 言 】	施立10周年を記念して	寺山浩三	2
【 随 想 】	設立10周年 おめでとうございます！	屋敷幸男	3
【 寄 稿 】	ものづくりとデザイン・シンキング	石本和治	4
【 事業報告 】	門真市中小企業サポートセンターの事業継続	佐藤伸吾	5
【 活動報告 】	戦略的基盤技術高度化支援事業(サポイン)	直塚徹 吉田悦明	6
【 活動報告 】	(財)わかやま産業振興財団 「平成 26 年度ものづくり支援活動」	西村尚 岡本茂司	7
【 活動報告 】	「ビジネスマッチングフェア 2014 with 大阪大学」に出展	村岡隆	8
【 活動報告 】	関西産業活性協議会(KIAC)での活動報告	栗野順二郎	9
【 活動報告 】	「門真メタルスーパー群団」の設立・活動支援	近藤穆 村岡隆	10
【 活動報告 】	門真市5企業の「5S改善活動」進捗状況報告	西村尚 中西政貴	11
【 活動報告 】	ものづくり支援活動<ものづくり補助金申請の支援活動>	平井佳紀	12
【 活動報告 】	ワーキンググループ-5の販路開拓支援の紹介	栗野順二郎	13
【 活動報告 】	コ・クリエーション協同組合との協業による新たな 海外展開支援事業	鶴川信雄 西岡正義	14

「平成27年度基本方針」

理事長 富永安治

平成27年度の基本方針は前年度の実績を反省し、近畿産業技術クラスター協同組合の経営基盤の確立とさらなる向上を目指し、協同組合の基本理念を理解し、これを踏襲して、組織的活動の推進と向上を図る。

目標達成には、各位の段階で具体策の改変はこれを問わない。

さらには、新しい社会貢献プログラムを樹立する。

1. 組織

組織は営業技術本部、業務局・企画部の事務局を基本として、プロジェクト制を敷き各長がこれを統括する。

2. 経営戦略

戦略は初心に帰り、中小企業に目線を合わせ、コンサルタント技術を軸に、人脈の構築と顧客の拡大及び知名度向上を図る。

3. 自己研修による技術及び指導力の向上

今後も研修・厚生には力を入れて、技術力のレベルアップを図り、クラスターの実力をあげ、信頼性の向上を図る。

4. 社会貢献プログラム

中小企業の啓発に力を注ぎ地域振興を計る。

- ① 地域金融機関との連携。
- ② 地域商工会議所との連携。
- ③ 各団体との連携

5. 組合内外の情報力の向上を図る。

【巻頭言】



設立10周年を記念して

創業者・初代理事長 寺山浩三

近畿産業技術クラスター協同組合が設立10周年を迎えることになり、誠に悦ばしいことと存じます。創業者であり初代理事長として、数々のお客様、ご支援者、ご関係者の皆様、そして会員の皆様のご厚誼、ご尽力に厚くお礼を申し上げます。

思い起こせば、私が日立マクセルに勤務していた現役のころから、いつか退職する時には自身でコンサルタント業を創業したいと考え、吹田の土地を求め自前のオフィスを準備し始めたころに時代は戻ります。退職したのち当時の仲間と相談し、「テラテック」を創始したのに続き、母校である大阪府立大学、そして日立グループOBの方々に巡り会って、法人化を目指して奔走していました。そして、ある時偶然にもある会員の属するNPO法人から、近畿産業経済局の須山部長(当時課長)を紹介され、お力添えを頂いてとんとん拍子に大阪府中小企業団体中央会から協同組合の認可を頂きました。

その後は順調に会員数も増え、事業も活発になってまいりましたので、実質的な活動は後輩に託すことができました。しかし、私は今も中小企業さんへの経営支援・技術支援に対する情熱は癒えることなく、社会の潮流や行政の施策などに沿って思惟を巡らせております。

近畿産業技術クラスター協同組合がますます発展し、皆様のために貢献できることを信じております。

近畿産業技術クラスター協同組合のあゆみ

平成10年：ものづくりコンサルタント業「テラテックコンサルタント」設立

平成16年：「近畿産業技術クラスター協同組合」設立

平成16年：販路マッチングナビゲート事業に参画(～21年)

平成18年：企業OB人材マッチング事業に参加(～19年)

平成20年：新現役チャレンジ支援事業(モデル事業等)に参加(～21年)

平成22年：川上・川下ネットワーク構築事業の採択

平成23年：戦略的基盤技術高度化支援事業(I)採択(～26年)

平成24年：「門真市中小企業サポートセンター」受託、活動中

平成26年：戦略的基盤技術高度化支援事業(II)採択、活動中

【随想】

設立 10 周年 おめでとうございます！



顧問 屋敷幸男

寺山兄とはじめてお会いしたのは、カルチャー仲間からの一度会ってみたら…の一言からです。ある昼下がりジャンルや活動状況など、話題は高まり夕刻まで歓談、別れ際にところでお仕事は…ということになり、お互い技術系 OB であることから再会を約し今日にいたっています。この出会いは平成9年頃だったと記憶しています。

今日まで兄貴分として、お互い船頭になったりお客になったりするとは思ってもありませんでした。

こうして「近畿産業技術クラスター協同組合」が結成されるまでに幾つかの節目がありました。平成10年末だったと思いますが、「テラテックコンサルタント」が夢を开花させようと創立されました。趣旨に賛同された方々からは「技術者 OB となって社会へ奉仕還元し、自らの知力をもブラッシュアップしたい」と、かつて仕事や技術でご縁があった方から、どこからか伝え聞いた方々など「来る人は拒まなければ、人が人を呼び、欲が欲を無限に膨らませてゆく」を基本に、自称・他称の多士済々の諸氏が相集い、技術系 OB の異業種交流会（大宴会）となり、これからの発展を誓いあいました。

さて、前記の多士済々の諸氏（電気・機械・化学・微細加工・公害防止そして知財管理などなど）

の活躍もあり、支援の範囲が拡大発展してきましたが、新規顧客の獲得は苦慮の連続でした。皆さんの前にはだかった壁は知名度です。

中小企業団体中央会や近畿経済産業局など公的団体からの認証が不可欠であるとして、先達（NPO テクノメートコープ）の最高幹部お二方の先導ご支援には厚く感謝あるのみです。



2005年販路マッチングナビ大忘年会

世代交代や新陣容の活躍が「販路マッチング・ナビゲート事業」をはじめ、多くの新規事業の発展は、諸兄の奮闘の賜物として喜ばしいことです。

これからの活動に目が離せないアイテムとして、私は下記3項目に注目しています。

「国外生産の国内回帰」

「インキュベーション事業」

「企業が望む学生像」

設立の趣旨を忘れずに これからも頑張ります！





1. はじめに

経営革新等認定支援機関として門真の皆様とものづくり補助金申請でのお付き合いが始まって4年目になります。その間多くの企業様のものづくりの支援をご一緒にさせていただきましたが、その経験を踏まえて、大阪府主催の「デザイン・シンキング」実践講座を昨年暮れと本年1月に2回担当させていただきました。

日経BP社の勝尾岳彦氏とデザイン専門家と小生の3名で先ずセミナーを行い、ワークショップ(以下WS)を3回行う内容です。

デザイン・シンキングは最近、ものづくりやイノベーションのための開発ツールとして非常に脚光を浴びており、日経BPではいろいろな雑誌で取り上げております。

2. デザイン・シンキングとは

ではデザイン・シンキングとは何でしょうか。単にモノづくりの際にデザインが重要であるという話ではありません。アメリカや日本のデザイン専門学校ではなくむしろ経営学等を教える大学が、世界的なデザイン会社とタイアップして授業を持っています。アメリカのコンサルティング・デザイン会社IDEOがスタンフォード大学で、frog社がハーバード大学ビジネススクールで、そして東大や慶応大学でデザイン・シンキング(以下デザイン思考)の授業が行われています。

フィールドワークを先ず行う事で、消費者の価値観、今ある商品への不満やニーズの深いところを掘り下げ、キュレーションした情報を整理し、新たな商品開発の工夫を行い、グループワークでイノベーションを生み出す考え方は、

そこからSTPM(セグメンテーション、ターゲティング、ポジショニング、マーケティング)に至る一連の作業を行いながら、新規性、市場性のある独創的な商品を生み出すものです。

3. 失われた日本の20年

ものづくり大国と言われた日本に、ヒット商品が長い間生まれず、デジタル社会では、サムソンにまで、家電メーカーが後塵を拝する状況

になった理由は何か。実はサムソンなどは早くからIDEO社などと付き合いがあり、デザイン思考のものづくりを実践してきました。アメリカのアップル社の躍進、その他多くの成功事例が生まれることで、やっと日本もデザイン思考の重要性に気づいて来たと言うわけです。

4. ツールだが実践すると課題が見えてくる

デザイン思考はものづくりのツールだということ、開催したWSを通じて日本人のものづくりの欠点が見えて参りました。グループワークで行うブレインストーミングのやり方、情報をキュレーションする前の情報収集の仕方などまだ非常に稚拙です。

情報収集に「知識のコモディティ化」が起こっています。WSでテーマを与えたとき、参加者は一斉に検索を行います。検索キーワードが同じだとどういったことが起こるでしょうか。どのグループも同じ検索結果を導き出しています。そこからキュレーションしてもオリジナリティは生まれません。

さらに、ブレインストーミングでの声の大小、ファシリテーターがいないと、大きい声の主の考えにどんどん傾いていきます。せっかく良い案が出ているのに、声の小ささで埋没、皆さんの会社で似た現象は起こっていないでしょうか。

5. デザイン思考の活かし方

デザイン思考に関する本は非常にたくさん出ています。本家のIDEO社のHPやfrog社のHPを見るのが一番、無料のダウンロードで学べます。

デザイン思考は「市場を見据えた売れる新しい商品づくり」のツールです。従ってうまく活かさないと結果は今までと何の変化も生まれません。市場に埋もれたニーズを顕在化し、商品化するために、どのような方法でものづくりに結び付けていくか、一度是非「デザイン・シンキング」とは何か、アマゾンで検索し、本を買い、学び、デザイナーだけではなく企画・開発部門の方こそその仕事に活かしてみませんか。

【事業報告】

門真市中小企業サポートセンターの事業継続

門真市中小企業サポートセンターは、平成24年10月1日開設以来、3年近くになる。更新の時期になり、1月16日締切の入札に申請書を提出、1月27日のプレゼン会での取組み説明、3社競合する中、1月30日に当組合（KSTC）が採択された。4月1日より3年にわたり、門真市中小企業サポートセンターの活動を継続し、門真市と共に門真市中小企業の業績向上の役立つよう、任務を果たす事になった。



門真の元祖招き猫
イメージキャラクター「ガラスケ」

1. 今までの経過

当中小企業サポートセンターは、門真市内産業の活性化、雇用機会の創出及び市民生活の向上に寄与する事を目的に、総合的な支援拠点として設置された。

その趣旨に則り、企業の経営、販売、生産、技術、新製品開発、財務などの支援を行ってきた。

2. プロジェクト活動

企業の連携を図り、相互の力を発揮出来るように企業とプロジェクトを形成して進めている。主なプロジェクトは以下の通りである。

輸送機器（航空、車両）プロジェクト

金属加工プロジェクト（メタルスーパー）

植物工場プロジェクト

防虫監視システム

その他：5S活動など



3. 成果の事例：販路の開拓

上記の輸送機器プロジェクトの活動では、販路開拓に成果が上がっている。門真市の企業6社を大手の輸送機、航空機部品メーカーにつなぎ、**販路（取引ルート）**が拡充しつつある。

4. 成果の事例：ものづくり補助金

経済産業省の**ものづくり補助金事業申請**で成果があり、昨年、一昨年の2年間で我々の支援により、54社が採択された。申請は72社で、54社の採択になるため75%の採択率である。

5. 成果の事例：改善活動プロジェクト

5S活動、QCサークルなどの改善活動支援も定着し、昨年は5社の成果発表を行った。今年は**3月11日（水）に7社の成果発表**の予定である。改善活動も定着しつつある。

6. 今後の活動方針（ビジョン）

活動方針（ビジョン）は次の通りである。

門真の自立・再生・飛躍

自立だけでなく、円安による大手のメーカーの日本への戻りも上手く活用し、再生・復活へつなごう。

7. 今後の進め方

プロジェクトなど企業支援の充実、守口門真商工会議所、守口市とも連携しながら、新価値創出、創業へつなごう。

<ジャンプ（3年目）>

連携による新価値創出へ

<ステップ（2年目）>

オール門真で創業へ

<ホップ（1年目）>

地域企業の連携強化

8. センターの開館日とアドバイザーの構成

土、日曜日、祝日以外平日11時～19時開館、アドバイザーは25名で、4名づつ交代で企業の皆さんの相談に応じている。



（門真市中小企業サポートセンター）

〒571-0048
大阪府門真市新橋町3-4-103
TEL/FAX 06-6995-4068
URL <http://www.kadoma-sc.hs.plala.or.jp>
E-mail kadoma-center@bz04.plala.or.jp

（佐藤 伸吾 記）

【活動報告】

戦略的基盤技術高度化支援事業（サポイン） ＜大型車両の車輪脱落を防止する型式認定1軸締付機械（ナットランナー）の開発＞

サポインの大幅な制度改定が行われ、従来は100%委託事業として行われていたが、本年度より申請企業等は申請予算額の2/3が補助される補助事業となった。

平成26年3月まで当組合（KSTC）は事業管理機関としてサポインを実施していたが、その認定事業者である株式会社ユタニ（奈良県）は、本年度も標記テーマにて新たにサポインに応募して採択された。事業管理機関は引き続きKSTCが担当することとなった。

実施期間は平成26年度～平成28年度の3か年である。

1. 開発の狙い

近年、大型車両の車輪脱落に伴う事故が多発しており、その原因は車輪の締付不良に起因するものが大半である。大型車両の車輪締付作業は、締付トルクが大きいため二人作業で肉体的負担が大きいが、締付不良が多く発生する原因とされる。

そこで、本サポインでは、締付トルクを適正に管理できる締付機械（ナットランナー）を開発する。この締付工具はエアモータを動力源としたものであるが、従来の機械・工具に比較して大幅に小型・軽量化することを目標としており、一人作業が可能で、大幅な作業効率の向上が期待できる。



2. 開発項目

この締付工具を実現するため、以下の研究開発を実施する。

(1) 減速機及びクラッチ機構の開発

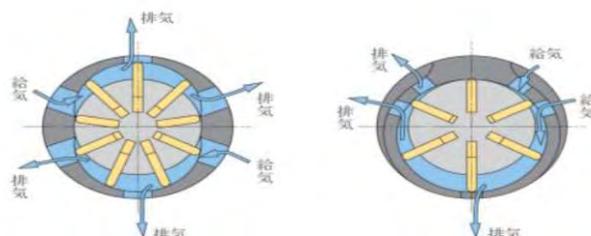
高速に回転するエアモータの動力を高効率で締付機構に伝達するための減速機及びクラッチ機構を開発する。

(2) 締付精度に影響しない反力受けの開発

高トルクの締付に対応できる小型・軽量の反力受けを開発する。

(3) 無給油小型軽量高効率のエアモータ開発

一般の整備工場での作業を想定して、締付機械の無給油は必須であるため、耐摩耗性、耐熱性に優れたエアモータを開発する。



(4) 小型コントローラの開発

締付機械に内蔵するための小型コントローラを開発する。

3. 開発推進状況

本年度10月に第1回推進委員会を開催し、研究開発がスタートした。まだ開発の端緒についたばかりではあるが、今後の開発展開を見据えた事前検討を進めている。当組合も主担当企業である（株）ユタニの開発推進をバックアップすべく開発項目の洗い出し・精査を行っている段階である。

4. 今後の展開

事業管理機関としての当組合は、今後3年間の研究開発が順調に進むよう努力していく所存である。

本締付機械が実現できれば、大型車両の締付作業の効率化、締付トルクの適正化・管理の充実により、車輪脱落事故の低減に寄与することが期待できる。

（直塚 徹・吉田 悦明 記）

【活動報告】

(公財) わかやま産業振興財団『平成26年度ものづくり支援活動』

平成26年度ものづくり支援活動として、9月からK社に支援アドバイザーとして活動を行っている。その進捗の中間報告及び2015年3月までの成果目標に関して報告する。

1. K社について

和歌山市・大阪・阪南市を中心に給食弁当を製造されており1日8,000食の弁当を製造されている。お客様のニーズから種類も多く、一般向け・高齢者介護向け・幼稚園・中学校給食など広範囲に渡っている。特に給食は、喫食の2時間前調理を基本にされており非常にタイトな製造工程である。現状よりも更に安全で安心な給食の提供が出来るように日々取り組んでいる。



2. 支援課題内容

上記の状況下の中、今回の支援活動は、

- ① 弁当全種類が問題なくスムーズに製造できる体制の構築。
- ② 安全で安心な弁当が提供できる工場体制の構築
- ③ 上記を構築するに当たり在庫管理の掌握と日々の原価管理の見える化を課題内容として活動を実施して来た。



3. 進捗状況の報告

2015年1月までに都合8回の支援活動を実施した。実施してきた具体的な取組の内容と今後の活動による改善の成果予想について記載する。

① 食材発注書の電子化

従来の発注書は、各栄養士さんが担当別ユーザに対して手書で管理していたが、データの集計をする事が出来なかった。発注書を電子化して集計業務が出来る体制に変更した。

② 月末の棚卸実施

従来から月次での棚卸が実施されていなかった。棚卸のルール書を作成して会社全体で月末棚卸を実施し、在庫管理が出来るように実施した。

③ 食材の原価変動管理

円安の傾向が続く中で、食材の原価率の推移を時系列で管理出来る様に管理方法を構築した。

④ 食材の廃棄率の算出：

弁当受注数と生産量の日々のデータを取得・集計してグラフ化し弁当の廃棄率推移管理が出来る様にした。業界の水準である廃棄率5%以下で管理するように管理グラフ等の活用により改善を進める。

その他、5S活動の教育等も進めてきた。支援活動終了までに、部門毎の在庫管理及び業態の管理方法のルール作りを行い、管理を標準化する事で支援課題の構築を図って行く。

(西村 尚・岡本 茂司 記)

【活動報告】

大阪経済に元気をもたらす中小企業がグランフロントに集結！ 産産学「ビジネスマッチングフェア 2014with 大阪大学」に出展

平成 26 年 11 月 20 日(木)～21 日(金)、グランフロント大阪北館 B2F
コングレコンベンションセンターで開催されたビジネスマッチングフェア
2014 with 大阪大学に、当組合は今回も参加・出展しました。



このマッチングフェアは、1999 年に当時の摂津水都信用金庫が主催し、2002 年より大阪大学との産学連携を主目的として毎年開催されており、今回で 16 回目を迎え、産学のみならず産産の連携（地域連携）をも視野に入れたフェアとして開催されてきました。

会場は、長らくホテル阪急エキスポパークでしたが、参加企業が多くなり手狭になったとのことで、今回はグランフロント大阪北館になりました。交通の便も良くなったこともあり、参加者は 2 日間延べ 4,693 人となりました。

同時開催として、5つのセミナーが開催されました。大阪大学産学連携本部主催の「大阪大学イノベーションフェア 2014」では、体感型イベントとして「最先端のロボティクス技術」成果発表 6 件とロボットの実演があり、ロボットの応用設計のみならず、基盤技術開発の新たな可能性を模索しようと多くの方が参加していました。

そして、北摂地域の商工会・商工会議所による「中小企業応援セミナー」としてバイオサイエンス、開放特許と技術革新、事業継続計画（BCP）のセミナー、追手門学院大学による「中小企業経営者支援セミナー」が開催され、当組合員も分担して参加し、新規取引先の開拓、各機関の支援方策・最新技術動向の把握、その他情報交換などを行いました。今回から交流会がなくなったのは情報収集上も残念でした。

今回の出展企業・機関は、産業機械・電気機械・器具 29 社、化学・合成樹脂・紙・印刷 14 社、金属製品・部品 22 社、生活関連・情報通信・建設・サービス 48 社、支援機関・団体 48 団体、計 160 で昨年 の 130 社を上回りました。その他各機関のブースにも多くの地元企業が出展して

おり盛況でした。

当組合のブースはこれまでは 1.5 ブース分あり企業さんの展示にかなりのスペースがさげましたが、今回から 1 ブース分のみとなり手狭で重量物搬入も不便となり、今回は門真の㈱マグナボックスの「雨降り検知センサー」を展示してもらいました。同社から 2 名の方が参加され製品説明や販路開拓に各ブースを精力的に周りられました。ブースでは組合紹介ビデオを流し無料相談会も開いていましたが、支援機関ブースの配置がツボの底のような場所で来場者動線が悪く少し静かな状況でした。



当組合ブースと㈱マグナボックスの展示

今回もパンフに書かれている企業ニーズを予め調査的を絞って訪問するという手法をとり、未訪問の門真市内企業を知り、ブースに責任者の方が来訪され、門真の中小企業や他の企業とのマッチング可能性のある具体的な話や、支援機関からコラボの依頼もありました。

当組合の門真市中小企業サポートセンター業務受託が継続しますが、組合員も増えており門真市内企業のみならず大阪北部企業の支援にも本フェアで得た知見を活用するべく今後活動していく所存です。

(村岡 隆 記)

【組合活動】

関西産業活性協議会(略称:KIAC)での活動報告

KIACは、2003年9月から2008年3月に行った近畿経済産業局の「販売マッチング・ナビゲート事業」を実施したメンバーで構成する集合体で2009年に誕生した。各団体は中小企業の各種支援を行うNPO法人等の6団体で、総勢228名の大手・中堅企業のOBでなり立っている。今年度は、「オープンイノベーション手法を活用した戦略的アライアンス構築等に向けた基礎調査」というテーマで協力活動してきたので、それを報告する。

1. はじめに

近畿経済産業局は、川上・川下とのマッチングを想定しながら、過去4年間にわたり実施してきたオープンイノベーションのニーズ・シーズ調査を参考に、平成26年度から新たな産業クラスター構築に資する技術課題等の情報収集を行っているが、これを公募しKIACが受託した。

2. 調査方法

1) 関西の大企業から11社を選定

近畿圏内のクラスターの技術分野を勘案して10数社を選定して11社に絞りこむ。

2) KIAC6団体から、企業訪問する担当コーディネータ(CD)数名を選定する。

3) 企業訪問担当者(CD)は、10月末までに各2回訪問して、新産業クラスターの川下企業の現状におけるニーズ発掘と技術課題・要望の収集を行う。

4) 成果報告書の作成

企業訪問のまとめ

近畿経済産業局への最終報告書の作成
納期12月1日

3. 調査実施

調査を始める前に、次の観点で各社にヒアリングをした。

1) オープンイノベーション手法を活用したビジネスマッチングに関する取り組み状況、ご意向、課題、抱えている技術課題等

2) 地域中小・ベンチャー企業との戦略的アライアンスや新たなサプライヤーチェーンの構築等に関するニーズ、技術課題等

3) 近畿経済産業局との取組み、連携の可能性について

4) 政策要望

5) 今後の予定/進む方向・狙い・提言

KIACのメンバーの一員として近畿産業技術クラスター協同組合(略称:KSTC)を代表して私が2社にヒアリングを行った。

この活動の結果はKIACがまとめ、近畿経済産業局に提出しており、公報で公表されるので詳細はそちらをご覧ください。

4. まとめ

先に述べたように詳細は公報で報告されるので、ここでは調査項目について私が感じた概要を述べる。

1) オープンイノベーションに取り組んだ実績のあるまたは今後取り組みたい企業が殆どである。

2) 戦略的アライアンスやサプライヤーチェーンを構築し、または今後取り組みたい企業が殆どである。

3) 近畿経済産業局との取組み連携の可能性について実績があり、または実績はないが今後取り組みたい企業が殆どである。

4) 政策要望等については、更に踏み込んだ関与や情報提供等を希望する意見が多い。

5. 総括

大半の企業は、訪問したCDと近畿経済産業局の熱心な説明により理解を深め、是非とも色々な取り組みを活用しながら、これを機会に積極的にオープンイノベーションに取り組もうとする動きが見られた。

これは低迷を続ける日本経済から抜け出そうとする企業の思いの一端の現れかと考えている。

(栗野 順二郎 記)

【活動報告】

技術力を活かし協同受注・協同生産を目指す！ 「門真メタルスーパー群団」の設立・活動支援



門真市内には金属加工を事業とする企業が数多くあり、市役所からの情報や門真市中小企業サポートセンター(略称：KMSC)の調査結果では、200社強はあるようです。その殆どが10名以下の小人数でものづくりをされている企業です。そして、ものづくりの手段として、例えば研磨だけとか、塗装だけとか一つの設備で長年仕事をされてこられた企業が数多くあります。

こうした底辺で事業をされている企業を少しでも元気づける方策として、「協同受注・協同生産システム」を確立し「企画を活かしたものづくり」をすることだとの結論に至りました。以下今までの活動について報告します。

1. 門真の金属加工関連業

KMSCとして金属加工業の実態を調べた結果、下記の状態を把握しました、

- 1) 優れた技術を持っている多くの中小・零細企業がある。(特に、四宮、三ツ島地区)
- 2) それを持ちながら自分限りで技術・顧客を譲らざるを得ない企業もある。
- 3) アイデアを活かし新規性・優位性・高品質・低コスト化をキーワードにしたユニークな製品を販売している企業も多い。
- 4) 大阪市内から移転、納入先が門真市外という企業が多くある。
- 5) 最近門真に起業・進出した企業(ファブレス系)もある。

2. 門真メタルスーパー群団が目指す方向

上記1の状況を踏まえ、株式会社新日本テック代表取締役社長和泉康夫氏や、元大阪府立産業開発研究所調査研究部長肥山正秀氏の話から、右図に示すように製品付加価値が変化しており、門真メタルスーパー群団が目指すのは次の内容になると考えられます。

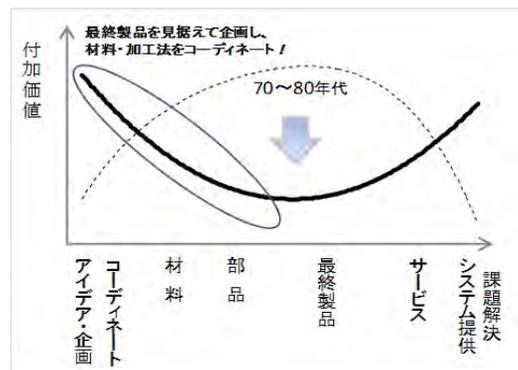
競争力優先 ← 「下請拡大戦略」

- ★技術力： 挑戦と互いの切磋琢磨、技術・技能伝承
- ★柔軟性： 少量・短納期生産
- ★提案力： 創意工夫、コーディネート

アイデアに優れた材料・加工法を加えた新価値創出が今後の重要なキーワードになります。

3. 目的と活動内容

- 1) 各社得意技術・製品を“見える化”して、関連各所配布と顧客も探しやすいネットで広くPRする。
- 2) 互助による協同受注・協同生産体制
- 3) 幹事団による顧客窓口・見積とニーズのブラッシュアップ・製品企画と分担管理
- 4) 技術伝承と切磋琢磨により技術・技能向上と幅を広げる。
- 5) 発注・照会は門真の業者へ、門真の技術は門真同業者に伝承。折角の顧客は門真業者に移譲。



過去2年の活動でようやくメタルスーパー群団のベースが出来ました。そして、この間で合計12件の製作依頼を受けました。今後の3年間では、中核企業のSYK株式会社と更に密接な連携を取りながら、短納期化・製造支援・品質管理支援体制を確立して、門真市内企業を元気づけられるようスタッフ一同頑張ります。

(近藤 穆・村岡 隆 記)

【活動報告】

門真市5企業の「5S改善活動」進捗状況報告

平成24年度に門真市から受託した「門真市中小企業サポートセンター」の活動として、企業訪問、補助金申請でのお手伝い、門真ネットでの出会いに加えて、5S改善活動実施企業の情報を聞いた企業からの要請により、第2段の活動も開始した。各企業が元気になる活動に対する挑戦に賛同され。第1段の3社に続いて、第2段の2社の取組みで計5社の活動を支援している。「5S改善を軸とした改善活動」の成果の一部・進捗状況を報告します。その他、QCサークル活動等延べ11社の支援もしている。

1. 活動参加5企業の取組み開始時期

1) 第1段参加企業 平成25年度スタート

①M社: 塗装関係 平成25年5月～ 継続活動中

②N社: 紙工品関係 // 6月～ 継続活動中

③D社: 精密板金関係 // 8月～ 継続活動中

2) 第2段参加企業 (平成26年度スタート)

④MS社: 油圧機器製造関係

平成26年7月1日 キックオフ大会実施

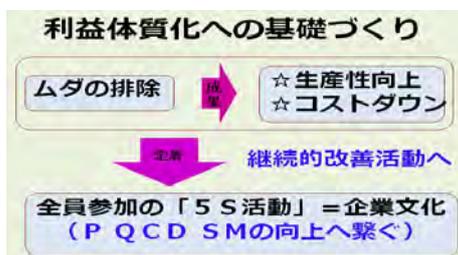
⑤YH社: 電子部品組立・検査関係

平成26年7月10日 キックオフ大会実施

2. 活動の狙い

改善活動では5Sの改善をスタートに全員参加で考え、行動できる企業体質づくりを目指して取組み中です。

多くの企業は、改善活動が一部の人の活動であったり、継続的なものでなかったりと成長し続けるツールとなっていないのが実情のようです。継続的改善活動が可能となる仕組みにより、5S改善主体の改善からQCDに関する領域へ、さらに設備管理(TPM)の領域に踏み込むなど大きな成果が期待できる活動を狙っています。



3. 活動を支える仕組みの概念

将来は、中長期事業計画を支える体系的な活動を可能にする姿を狙い、「やらざるを得ない活動の仕組構築」が必要です。

①毎月社長、幹部に対する活動報告の場を作る。

②改善の進め方セオリーに沿って1歩ずつ歩む

課題を与え続ける。(コンサルの手腕!?)

③与えられた宿題を確実にやり切る。(風土)

4. キックオフ大会の風景



5. 変化し始めた生産管理ツール化の事例

納期管理、生産順序管理による生産の効率化



(多くの企業で大きな成果を得ています)

6. 設備管理(TPM活動)に踏み込んだ事例

「清掃は点検なり」・・・摩耗金属粉を即発見する。故障の予防活動に行き着いた。



(西村 尚・中西 政貴 記)

【活動報告】

ものづくり支援活動 ＜ものづくり補助金申請の支援活動＞

当門真市中小企業サポートセンターでは「ものづくり支援活動」の一つとして、経済産業局が実施する「平成 25 年度補正 中小企業・小規模事業者 ものづくり・商業・サービス革新事業」の補助金(以下補助金)の申請について、企業の皆さんに申請書の書き方から、申請の仕方まで、きめ細かい指導を行っている。本年も精力的に実施し、その成果が得られたので報告する。

1. 補助金の公募、サポート体制

昨年度の補助金申請に引き続き、本年も3回に亘り補助金の公募があり、当サポートセンターでその申請のサポートをすることになった。

この補助金の上限は 1,000 万円、補助率は 2/3 でものづくり支援をするもので、中小企業にとっては利用しやすい補助金である。

当センターのサポート体制としては、市との協力体制と共に、ビジネスコンサルティングとの共同推進も取り、的確な指示・指導ができるようにした。

2. 補助金申請書の書き方の指導

まずは公開された補助金公募の内容を市内の「ものづくり企業」へメール配信し、勉強会を開催し、広く補助金の内容を理解いただいた。

その後、申請希望の企業とは個別に当センターに来ていただき、詳細なサポートを行った。当方の見る目も一様にならない様、サポーターを二人体制で行い、的確な指導を心掛けた。



事務所内、企業とのサポート風景

平成 25 年度補正の補助金支援は、3回に分けて実施され、当センターでは、それぞれ4社、13社、9社、計26社についてサポートを行った。

3. 補助金の採択結果

昨年度当センターで取扱った申請企業数は46社で多かったが、今年度は26社にとどまった。その採択結果は次の通りである。

平成25年度補正 補助金申請採択結果

	申請 企業数	採択 企業数	採 択 率 (%)
1次公募			
1次締切	4	4	100
1次公募			
2次締切	13	12	92. 3
2次公募			
2次締切	9	5	55. 6
計	26	21	80. 8

今年度は21社の企業が採択され、採択率は、80.8%であった。全国平均では、ほぼ50%(推定)であり、良い結果であった。

また、当センターの昨年度の実績では、33社が採択され、71. 7%の採択率であり、昨年以上の結果を出すことができ、企業皆さんへの貢献ができた。

4. 今後の取り組み

補助金の申請時のサポートだけでなく、採択後のサポート、設備導入時およびその後の改善について、今後ともサポートをして行く予定である。

(平井 佳紀 記)

【活動報告】

「ワーキンググループ-5」の販路開拓支援の紹介

門真市中小企業サポートセンターでは、昨年から新ビジネス創出支援事業の関連でワーキンググループ(以下WG)活動を始めました。WG-5は、輸送機器関連部品他、メカ関連の機器部材などを製造販売する門真市内の中小企業が集まり、航空機・自動車・産業機械などの技術経験者や販売経験者がアドバイザーとなって、企業の要望に応じた形で主に販路開拓の支援を行っています。

1. 販路開拓の取組みの経緯

(1)販路の拡大

門真市内には航空機関連部品を製造する為に必要な認証である JISQ-9100を取得している企業があります。当初はその企業の周辺部品の拡販から支援を始めました。

話題になっています航空機など輸送機関連は大部分大手企業が取り組んでいます。その分野に中小企業が新規に入り込むのは、なみたいていの事ではありません。また本来企業の販売は一企業対一企業で構築していくものですから、WG-5に参加する市内企業も当初は中々増えませんでした。

ちょうど航空機器・鉄道車両など輸送機器の販売及び技術経験者がWG-5のアドバイザーにいますので、そのルートを取り入れて徐々に販売支援実績を伸ばしていったのでした。

実績が出来るに従ってその内容を知った市内企業が徐々に増え、また市外の専門商社を含めた協力企業とも取引が繋がるようになりました。

OK(株)(塗装)
KK(株)(溶接板金)
(株)DK(自動化装置)
(株)FT(航空認定機械加工品)
(株)KT(機械加工品・治工具)
HY(銀口一付け)

(WG-5参加企業)

(2)信頼関係の継続

企業間取引は原則的には当事者間が積み上げていくものですから、企業支援は出来る限り当事者同士でおこなえる環境を整えました。

その代わりに大手輸送機器製造メーカーの工場見学や講演会の参加など、中小企業が通常体験できない会合などにも案内しました。



(JISQ-9100認定証)

企業間取引の最も注意すべき事柄は、企業間の信頼関係ですから、当事者間の取引が開始しても両社の信頼関係が保たれているかは我々サポート側の最も注視すべき事柄です。

この信頼関係が構築されていながら、安定した企業間取引が持続しつつある事は、サポート側として大変喜ばしいことです。

2. 今後の進め方

WG-5の目標は、「協業して航空機産業参入支援」を掲げています。但し、このような“心地の良い目標”はそう簡単に実現するものではありません。

まずは真面目な門真市内の中小企業が、航空機分野等においても徐々に販売実績を伸ばし、結果的に市内外の企業間で繋がり、協業を更に進展させていく方向で支援を続けていきます。

このWG-5の良い繋がりを今後とも地道に広げていきたいと考えています。

(栗野 順二郎 記)

【活動報告】

コ・クリエーション協同組合との協業による新たな海外展開支援事業

近畿産業技術クラスター協同組合(以下KSTC)では、中小企業の皆さまに販路開拓・改善活動・助成金申請等の様々な“ものづくり支援活動”を展開して参りましたが、この度、中小企業様への海外進出支援および外国人技能実習事業の経験が豊富な「コ・クリエーション協同組合」(以下コクリ)と業務提携を行いました。 今後は、従来の技術コンサルタントを核としつつ、グローバル化する経済環境における中小企業の海外対応力を強化すべく、個別企業様ごとに積極的な支援を行って参ります。

1. 海外展開支援メニューと実施順序

今後実施予定の事業は下記の通りです。これらを実施するにあたっては、先ず外国人技能実習事業、次に海外進出支援の順番に実施して参ります。

- ・外国人技能実習事業など
- ・海外戦略、事集計画(F/S)策定補助
- ・駐在員(候補者)に対する各種研修の実施
- ・法人設立、会計、システム構築専門家の紹介
- ・現地人事評価制度策定サポート

2. 外国人技能実習事業

外国人技能実習事業とは、諸外国の青壮年労働者等が技能実習生として日本の企業等で、産業・職業上の技能等を修得すると共に、修得した技能等を更に実践的に習熟し、母国に帰国後、その修得・習熟した技能等を経済・産業発展のために役立ててもらふ人材育成を目的とした制度です。

現在、政府(規制改革会議等)において、外国人技能実習制度の「受入れ対象職種の拡大」・「受入期間の延長」・「受入れ人数枠の拡大」といった制度拡充策が打ち出され、大変注目を集めています。

尚、本制度をご存じない企業様には分かり易い説明



(ベトナムでの事前講習)



(ベトナムでの事前実習)

を、また既に本制度を活用されている企業様には、より中長期・高所大局視点での外国人材の有効活用についてコクリよりお話しさせていただきます。

3. コクリとの協業について

外国人技能実習事業を実施するに当たり、KSTC及びコクリそれぞれの得意分野や経営資源を相互協力のもとで分担し、それぞれが自己責任のもとで業務を遂行して参ります。

KSTCの業務;海外人材の企画・提案・紹介・教育
コクリの業務;技能実習事業の監理・指導・海外人材の管理・育成・教育

4. 今後のコクリとの協業

中小企業の海外進出支援に取り組んで参ります。海外生産や海外での販路開拓は今後も中小企業にとって必須の課題であり、海外に拠点をもち海外での人的交流経験の深いコクリと、KSTCの海外ビジネス経験をもつ企業OBとの協業を実現させることで本事業を進めてまいります。

(鶴川 信雄・西岡 正義 記)

◆近畿産業技術クラスター協同組合◆
(テラテックコンサルタント)

〒564-0027
大阪府吹田市朝日町15番24号303
TEL：06-7175-4980
FAX：06-6317-0579
Eメール：kstc@b.zaq.jp
URL：www.kstc.jp (新ホームページ)



■アクセス

JR吹田駅下車 → 旭通り商店会をスーパー satake の隣を左に。(徒歩3分)

阪急吹田駅下車→メイン通路を南東へ、JRの高架下を渡り線路沿いに旭通り商店会を。(徒歩15分)





「露の黨（ふきのとう）」
寺山南楊氏作品
南北墨画会常任理事

近畿産業技術クラスター協同組合
セラテックコンサルタント
発行日：平成27年3月1日
編集長：近藤 穆
編集委員：大久保 浩司 村岡 隆
大久保 雅巳
校正委員：平井 佳紀